

## 郵便貯金切手台紙 明治33年－昭和16年

田畑 裕司

このコレクションは、日本切手のゼネラル収集を続けていた中で、自然と集まってきたものが、一応恰好がついてきたので2フレームにまとめたものです。

そもそも郵便貯金は、明治8年（1875年）5月2日に開始されました。当初の取扱局は19局にすぎませんでしたが、明治17年度末の全郵便局所数の5,307に対し、1,664と大幅に増加しました。

日本において明治33年（1900年）から実施された切手貯金は、明治13年（1880年）にイギリスで開始されて以来、各国で行われるようになった貯蓄奨励策です。

日本における切手貯金は、主に学童の少額預入を対象としたものです。学童から郵便貯金を根付かせ、しいては国民からの預金額増加を目論んだものでした。

その流れを説明しますと、先ず預金者は、郵便局で交付する切手貯金台紙に郵便切手を貼り付けて、これを郵便局に預入金として差し出しました。郵便局では、郵便為替貯金管理支所に預入報告を行い、同管理支所は貯金原簿に記載し、切手貯金台紙を預金者に返送しました。そのため、切手貯金台紙は預金者の手元に残り、台紙から剥がされた切手も多く存在します。しかし、明治42年（1909年）4月1日からは、希望者のみ切手貯金台紙を返送するようになったので、台紙の現存数は少なくなりました。

切手貯金は、明治期に最盛期を迎えましたが、関東大震災後の大正12年（1923年）9月29日から当分の間、台湾及び朝鮮を除き停止とされました。局員の中では、切手貯金は手間ばかりかかり、余り評判がよくなり、震災後の業務が大変な時期を契機に停止されたものでした。結局、昭和16年（1941年）6月30日まで停止されました。

昭和16年（1941年）7月1日から10銭切手の刷込みのある郵便切手貯金台紙が発行されて制度が復活したが、昭和18年（1943年）7月10日に郵便切手貯金の取扱いを廃止しました。

なお、記念郵便切手貯金台紙は、大正大礼記念（大正4年）と世界大戦平和記念（大正8年）の2回発行されました。

この本作品は、郵便切手貯金台紙について、第1次から第6次までの主なものと記念郵便切手貯金台紙の全4種類をすべて示したものです。代表的な台紙は、できるだけ未使用も併せて示すようにしました。

# 第1次発行

明治33年

1か月の預入れ上限である合計1円の額面を貼付した例

郵便切手貯金預入ノ心得

一 此臺紙ニ郵便切手ヲ貼付シ拾銭以上ニ達シタルトキハ之ヲ郵便局ニ寄附シ差出スヘシ然レトキハ郵便貯金取扱所ハ其金額ヲ記入セル貯金通帳ヲ交付スヘシ若シ積少ニ郵便切手所持ヘルトキハ通帳ニ臺紙ヲ添ヘテ差出シ之ニ金額ヲ記入シ受ケヘシ

一 此臺紙ニ貼付セル切手ニシテ汚損毀損スルモノハ郵便貯金取扱所ニ送付スルコトナラズ

一 切手貯金ハ一ヶ月壹圓ヲ超過スルコトナラズ

一 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ヨリ郵便切手貯金臺紙ノ交付ヲ請求スルトキハ郵便貯金取扱所ハ無料ニテ之ヲ交付スヘシ

郵便切手貯金臺紙

印日受貯切	手額面	郵便切手	貯金
附入金手		金	士厚月
氏預	通	號	記
名ケ	番	記	
人	號		

黒沢佳子

女 四二五一

郵便切手貯金預入ノ心得

一 此臺紙ニ郵便切手ヲ貼付シ拾銭以上ニ達シタルトキハ之ヲ郵便局ニ寄附シ差出スヘシ然レトキハ郵便貯金取扱所ハ其金額ヲ記入セル貯金通帳ヲ交付スヘシ若シ積少ニ郵便切手所持ヘルトキハ通帳ニ臺紙ヲ添ヘテ差出シ之ニ金額ヲ記入シ受ケヘシ

一 此臺紙ニ貼付セル切手ニシテ汚損毀損スルモノハ郵便貯金取扱所ニ送付スルコトナラズ

一 切手貯金ハ一ヶ月壹圓ヲ超過スルコトナラズ

一 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ヨリ郵便切手貯金臺紙ノ交付ヲ請求スルトキハ郵便貯金取扱所ハ無料ニテ之ヲ交付スヘシ

逓 信 省



貯金事務

郵便為替貯金管理所

司 九 三 川 野 子 子

正 任 付 印 紙

武蔵・川越郵便電信局  
縦書 月ⅡK  
明治33年5月4日

表紙 縮尺率50%  
一粒万倍  
オリーフ

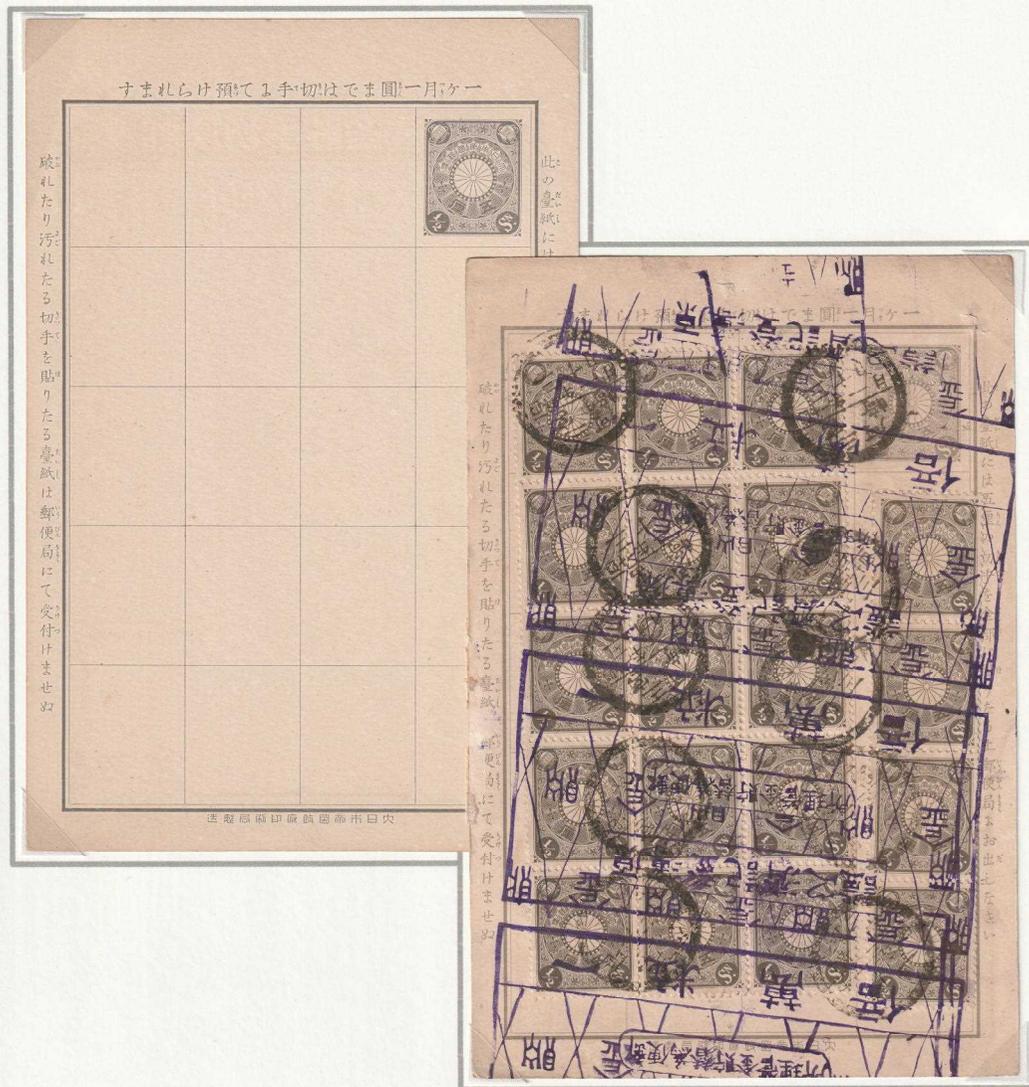
前期印刷  
利子換算表なし

### 第4次発行

明治39年

明治39年1月25日の省令をもって、従来の切手貯金台紙の第1面の表紙意匠を廃止し、半分の大きさのものに改正した。

#### 菊1/2 銭切手印面付



### 第5次発行

大正13年使用

朝鮮總督府通信局発行  
日本国内使用停止時期における朝鮮使用



公州 構型 C欄三星  
大正13年12月2日

朝鮮總督府通信局発行

表紙 縮尺率70%



# 記念郵便切手貯金台紙

大正8年

世界大戦平和記念切手貯金台紙 タイプ2 3銭貼  
通信省発行



台紙全体 縮尺率50%